

進捗状況の概要【1ページ】

【国際化関連】

○スーパーグローバルコースの設置

数学分野、化学分野、医学生命分野、人文社会科学分野、環境学分野、社会健康医学分野の6分野をスーパーグローバルコース参画分野とし、海外大学の研究者による講義の提供や論文の共同指導等により、学生に対して海外トップレベル教員から教育を受ける機会を提供した。

○外国人教員の雇用促進、外国語による授業科目数の増加、英語教育の充実化

共通・教養教育を所掌する国際高等教育院における外国人教員の雇用促進等により、全学の外国人教員等の数は着実に増加（平成25年度439人→平成29年度470人）。さらに、教育院および全学部・研究科において開設している外国語による授業科目数は平成25年度の639科目から平成28年度は1,171科目と大幅に増加している。国際高等教育院による英語教育の充実化および英語力測定のための取組（詳細は特筆すべき成果（グッドプラクティス）参照）により語学基準を満たす学生数も着実に増加している（平成25年度72名→平成29年度2,070名）

○留学支援体制の構築

平成29年4月までに4名の国際教育アドミニストレーターを採用し、新規の派遣／受入プログラムの計画・実施、留学に関する奨学金申請支援、留学関係の外部資金獲得支援等を行った。

○外国語による情報発信の充実

平成27年10月に国際広報室を設立し、ウェブや刊行物、海外向けリリースなどの本格英語対応に着手するとともに、全般的に英文コンテンツを充実化させた。（平成28年度海外向けプレスリリース数：36本）また、スーパーグローバルコース参画4分野においてedX上で6本のMOOCs（大規模オープンオンライン講義）を作成・配信（京都大学全体では10本）し、多数の登録者・修了者を集めた。

○ナンバリングの実施、GPAの導入

平成28年度以降に入学した学生を対象としたカリキュラムが適用される学部生を対象にGPA制度を導入。また、平成29年度より基本的に全ての授業科目にナンバリングを付番している。

【ガバナンス改革関連】

○国際化推進体制の整備

平成28年4月から、WINDOW構想に基づく総長のイニシアチブの下、国際戦略に係る施策の企画・立案を主に行う国際戦略本部を設置した。（詳細は特筆すべき成果（グッドプラクティス）参照）

○年俸制の導入

従来より年俸制対象となっていた外部資金を雇用財源とする雇用に加え、平成27年3月に退職手当など従来の給与体系にとらわれない給与制度として定員内雇用に関しても年俸制を導入し、適用者は以降順調に増加している。（平成25年度630人→平成29年度951人）

【教育改革関連】

○特色入試の実施

平成28年度入試より高大接続を重視した特色入試を実施（募集人員108名、出願者数616名、合格者数82名）。平成29年度入試では、実施学科の拡大（14学科→19学科）、募集人員の拡大（108名→145名）を行った他、TOEFLに加え、IELTS、国際バカロレアも評価する見直しを実施した。

【大学独自の成果指標と達成目標】

○学生の国際共著論文数の増加

学生の国際共著論文数が大幅に増加（平成25年度193編→平成28年度623編）。また、本学全体の国際共著論文の割合（学生に限らない）についても、構想調書執筆時の27%に対し、平成28年度の発行論文では33.6%（平成29年6月5日時点、Scopus収録全論文のうち国際共著論文の割合）と着実に増加している。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

【国際化推進体制の整備】

○平成27年度までは国際担当理事と国際交流推進機構長が実質的に並列する形態で教育研究双方に係る国際交流体制を採っていたが、平成28年4月からは、WINDOW構想に基づく総長のイニシアチブの下、国際戦略に係る施策の企画・立案を主に行う**国際戦略本部**を設置した上で、国際的な学生交流事項を主に審議する**国際教育委員会**及び国際研究交流活動を主に審議する**国際展開委員会**を併置した。これにより、トップマネジメントによる**国際戦略運営体制**を確立した。

○加えて、学内組織の縦割りを排除し、国際担当部署と、企画・広報・IR推進・学術研究支援等担当部署を横断的に繋ぎ、ビジョンと情報の効率的な共有を行うために、平成28年4月に国際戦略本部の下に**国際連携プラットフォーム**を設置した。

【ジョイントディグリーの新規開設、ダブルディグリーの拡大】

○本学の**文学研究科**とドイツ・ハイデルベルク大学トランスカルチュラル・スタディーズ・センター（HCTS）の間で、平成29年3月に文部科学省へ「**国際連携文化越境専攻（修士課程）**」の設置の認可申請を行った。本専攻の設置が認可されれば、国内初の人文社会系ジョイントディグリー専攻となる。また、**医学研究科**と**カナダ・マギル大学**に関しても、平成29年度中に国際連携専攻（博士課程）の設置の認可申請を行うべく詳細の交渉を進めている。

○ダブルディグリーについては平成26年度までに5プログラム存在していたところ、平成28年～29年4月に**新たに8プログラム**の協定が締結された。平成28年度末までに、本学側で**9名**、相手大学側で**21名**の学生がダブルディグリー参加学生として登録され、修了者は本学側学生が**4名**、相手大学側学生**12名**となった。さらに、博士論文の共同指導に基づく共同学位（コチュテール）の枠組みの導入を検討している。

【国際高等教育院における取組】

○全学共通教育の企画、調整及び実施等を一元的に所掌する国際高等教育院において、外国人教員100人の雇用を目指し、平成29年3月末時点で**74名**を採用。国際高等教育院において提供される**英語による教養・共通科目の数も着実に増加**した（平成26年度114科目→平成27年度171科目→平成28年度225科目）。

○平成26年度より新入生で外国語として英語を選択した者を対象に**TOEFL-ITP試験を年二回実施**している。平成28年12月の試験結果から、**英語力の維持・向上**が確認されている。

○平成28年に**国際人材総合教育棟**を新設。学生が自習等で使用できる**スピーキングコーナー**、**カンパセーションルーム**や、学内でTOEFL iBTが受験できる**CBTルーム**を備え、語学自習用の機材の貸出、英語ライティング-リスニングリスニング担当教員による**ワークショップ**、TOEIC対策講座等を行っている。

○平成28年度より、「英語のライティング-リスニング」授業を、20人を基準とする**少人数クラス**で運用している。この科目のすべての授業でリスニングの課題を毎週、課すために同院附属国際学術言語教育センター（i-ARRC）で整備した**国際言語実践教育システム（GORILLA）**を活用した。また、平成28年12月にARRCでは外国語の課外学習支援として、新たに**ポータルサイトを設置**して外国語学習に関する情報提供を開始した。

【Kyoto iUP、吉田カレッジ構想】

学部教育の国際化をさらに推進するため、平成29年度より**Kyoto University International Undergraduate Program（Kyoto iUP、吉田カレッジ構想）**を実施することを機関決定した。Kyoto iUP（吉田カレッジ構想）は、国内18歳人口の減少が避けられない状況の下、本学の教育研究を質・量両面で維持し、更に発展させるため、**優秀で志高い留学生の学部段階での受入を拡充**することを主な目的とした学士課程の国際教育プログラムである。このプログラムでは**入学段階での日本語能力は不問とし、入学決定後に徹底した日本語教育を継続的に実施**しながら、**英語による教養・共通教育を経て、専門教育段階から日本語で講義等を受講**し、グローバル展開を図る日本企業へ留学生を輩出、日本社会への定着を図る。併せて、**国際社会で活躍する日本人学生の養成を強化**するため、**留学生とともにグループワークやプロジェクト等を行う科目や英語による教養科目の履修、海外インターンシップ・長期留学を必修とする日本人学生履修コース**を設ける。これにより、本学学生のすべてが、多元的な価値観が共存するなかで、幅広く深い教養と専門的学芸を涵養するとともに、多様な価値観や異文化を理解する力やコミュニケーション力、俯瞰力などの涵養を促進する国際性豊かなキャンパス環境を創造する。（平成29年10月より第一期生がプログラム開始予定。）